

## 芝野郁美：日本藻類学会第34回大会エクスカージョンに参加して

2010年3月21日、日本藻類学会第34回大会のエクスカージョンが行われ、昭和天皇の生物標本コレクションを所蔵する国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館を訪れました。まずは国立科学博物館筑波実験植物園を見学し、再び集合した後、園内にある研究資料館に向かいます。植物園内に入った瞬間、見慣れない植物達に囲まれ、植物園特有の遠い国に来たような感覚になりました。

少しの自由時間の後、国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館(図1)の研究主幹でいらっしゃる並河さんの案内で、いよいよ昭和天皇のコレクションを見学させていただきます。一般公開されていないこともあり、館内は落ち着いた別荘のような雰囲気です。ガラスケースに丁寧に収められた生物標本からは、「展示品」ではなく「愛蔵の品々」という印象を受けました。昭和天皇はヒドロ虫類など海産無脊椎動物をご専門とされており、1階には、それら無脊椎動物の標本や、戦後出版された図鑑等が収められていました(図2)。2階には海藻標本を保存しているスペースがあり、高級そうな桐の箱にたくさんの標本が大切にしまわれていました。中にはタイプ標本もあります。

エクスカージョン世話人でいらっしゃる北山さんによれば、昭和天皇は海藻に興味が無かったわけではありませんが、ヒドロ虫類等のメインの研究対象に比べると、優先順位は低かったそうです。ではどうして、こんなにたくさんの海藻標本が残っているのかといえば、実は、採集に付き添っておられた香淳皇后が作られたそうです。標本の中には、新種も多くあったそうで、先に見たように現在貴重な資料として、ガラスケースや桐箱に保管されています。



図2 昭和記念筑波研究資料館の展示標本室



図1 昭和記念筑波研究資料館入口に並ぶ参加者と並河 洋氏(昭和記念筑波研究資料館案内人：右から2番目)および田中法生氏(植物園案内人：右から3番目)。

その後、国立科学博物館植物研究部棟に移動し、研究室を見学させていただきました。ここにも数多くの標本が保管されており、専門家の解説がその場で聞ける、ぜいたくな博物館のようでした。お忙しい中、それぞれの研究室の方々が熱心にお話下さり、地衣類であるリトマスゴケを使った、手作りリトマス紙まで頂いて、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今回のエクスカージョンに参加し、一度に多彩な生物や生物標本を目にして、改めて生物多様性の素晴らしさ、そしてその研究にかかる情熱を感じました。日頃研究室にこもっていると、自分の研究対象が生物の全てであるような錯覚を抱く時があります。また、目的や利益にとらわれ、無意識に視野を狭めていることもあるように思います。今回の経験で、たとえ一種類だけを扱っていても、広大な生物の世界を感じながら、目の前の生物と無心に無欲に向かい合いたいと改めて思いました。最後になりましたが、エクスカージョン開催にあたって企画・準備・運営に尽力し、当日も快くお世話して下さいました、国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館、筑波実験植物園、植物研究部棟の皆様、大会実行委員会の皆様に、心よりお礼申し上げます。

### <参加者>

大田修平、大村嘉人、小木曾映里、神木隆行、神谷充伸、北山太樹、芝野郁美、鈴木雅大、孫 忠民、平美砂歌、辻 彰洋、鶴岡邦雄、新山優子、馬場将輔、濱田 仁、早川昌志、吉崎 誠(敬称略、あいうえお順)

(京都大学大学院理学研究科)